

学力調査の在り方に関する研究

【プロジェクト代表者】
学校教育講座
准教授
川口 俊明

キーワード

・学力調査 ・項目反応理論

プロジェクトの内容 (目的・方法・結果と意義)

本プロジェクトは、項目反応理論 (Item Reponse Theory: IRT) を用いて、学力調査を再設計し、児童生徒の成績の変化、および変化の要因を推定しようとするものです。

全国学力・学習状況調査をはじめ、日本で行われている小中学校を対象にしたほとんどの学力調査は、児童生徒の成績の変化を測定できないという欠陥を抱えています。そのため、成績が向上しても、それが施策が功を奏したためなのか、それとも単にテスト内容が違うからなのか区別できませんでした。私たちのプロジェクトは、この問題を改善し、児童生徒の成績向上に有効な要因を探ることを目的としています。

成果の応用可能性 (私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。)

(1) 児童生徒の成績の変化の把握

年度を経るごとに、児童生徒の成績がどう変化するか測定することができます。成績の変化を測定することで、何が児童生徒の学力向上に有効なのか、統計的に分析できるようになります。

(2) テストの質の向上

項目反応理論を利用したテスト分析は、その過程で、テストの質を診断します (これを項目分析と呼びます)。この作業は結果として、テストの「良問」「悪問」を弁別することを可能にします。実践的な面から見ると、この過程を経ることで、より優れたテストを手に入れることが可能になります。

このプロジェクトの形成に寄与した制度等

平成28年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト

プロジェクト構成員 (所属・職名・氏名・役割分担)

学校教育講座・准教授・川口俊明・研究の総括
学校教育講座・准教授・樋口裕介・データ分析